

ゆりあげ港朝市、披露

5店舗で営業開始

カナダ—東北復興プロジェクト



左からニューマンカナダウッド代表、バリー・フォード同社ジェネラルマネージャー、トッピル駐日カナダ公使、佐々木名取市長、桜井広行朝市協組代表理事、新本恭雄セルコホーム社長

東日本大震災被災地の公共施設を、持続可能な林業で生産されたカナダの木材製品等を使用して建設する事業をカナダ連邦政府、BC州、アルバータ州、カナダの森林産業を代表する関係者が支援する、450万カナダドルのカナダ—東北復興プロジェクトの一環として建設が進められていた「ゆりあげ港朝市」が完成し、4日にオープンニング式典が開催された。

完成した建物は店舗（工法）1棟。これらの（2×4工法）2棟と施設は、震災後、閉上カナダ東北友好記念館 地区（宮城県名取市）（ポストアンドビーム）に建設された最初の公共施設となる。

閉上みなと朝市再建事業は、名取市とセルコホーム（仙台市、新本恭雄社長）がカナダ—東北復興プロジェクトに申請し、第一弾として採択されたもので、合計19店舗が営業する予定。現在は、地

元魚介類、水産加工品、野菜、果物等の5店舗が営業を開始している。式典で、ポール・トッピル駐日カナダ公使が「カナダ連邦政府を代表して、ゆりあげ港朝市の再開を心からお祝い申し上げます。朝市の再開とメイプル館は恒久的な遺産となる」と、またポール・ニューマンカナダウッド代表が「プロジェクト第一弾として閉上地区の震災後初の公共施設を建設・完成することができた。当地のパートナーと手を組んで復興と持続的成長へ最大限の機会を作ることが当

万カナダドルが拠出され、建設された朝市の店舗は2棟で14店舗。2×4で建設され、延べ床面積は285平方メートルで、カナダのSPF、ウエスタン・レッドシダー、OSBなどが使用されている。隣接地にカナダ・パビリオンである「カナダ東北友好記念館」も設けられ、「ポストアンドビーム工法」で496平方メートル。使用材は米松集成材、レッドシダーなどを使用した。これら3棟の建物で、合計19店舗が営業する予定。現在は、地

グループの使命」と、それぞれ述べた。佐々木一十郎名取市長は「津波で倒壊してしまつたゆりあげ港朝市をカナダの皆様のご支援で復興できたことを、私たちは決して忘れない」と感謝を述べた。